

高等部 生活単元学習（人権）学習指導案

1 単元名 みんなでボール遊びをしよう

2 単元設定の理由（一部省略）

本ホームルームの生徒は、知的障害特別支援学校の各教科等を代替する教育課程で学習している。保健体育科・美術科・家庭科などの学習を他のホームルームと合同で行ったり、学部全体の活動では他のホームルームの生徒と一緒に活動したりすることはあるものの、ほとんどの学習を3名で行っている。人とかかわることが大好きであるが大人との関係がほとんどで、友達どうしがかかわることは少ない。そのため、生活単元学習の時間においては教員とだけでなく、生徒どうしがかかわることのできるゲーム的な楽しい活動を取り上げるようにしている。また、教材や時間、場所を共有し、互いに意識し合えるよう向き合ったり触れあったりできるように環境を設定している。

あと1，2年で卒業を迎える3名の生徒たちには、安心できる環境の中、人とかかわる体験を重ねることで、相手を意識し、人とかかわる力をつけていてもらいたい。そして、くり返し体験し見通しがもてる活動の中で自分から発信したり、友達からの発信に応えたりできるようになってほしい。

ボール遊びは、一学期から継続的に行ってきた学習であり、生徒たちにとって何度も経験して見通しの持ちやすい活動である。くりかえし経験することで内容や手順がわかるだけでなく、学習への期待ももちやすい。また、活動をとおしてそれぞれが注意を共有したり、「やった」という感情や達成感をも共有することができる。ボール遊びという活動をとおして、生徒一人ひとりが握る、離す、引くなど自分のできることを発揮するだけでなく、友達を意識して注意を向けたり、順番を待ったりすることで、今後生活をする上で必要な他の人を意識し、共に生活を楽しみ豊かにしていく力を身につけられる。また、仲間集団の関係性も高めることができると考え、本単元を設定した。

3 単元の目標

- (1) 友達や教員と意識してかかわり、ボール遊びを介してやりとりすることから、生活の中で人とかかわる力を育てる。
- (2) 手を出す、握る、放す、引くなど自分のできる方法で活動を楽しめるようにする。

4 指導計画

- (1) ボールをかごに入れよう 10 時間
- (2) トイを使ってキャッチボール 8 時間
- (3) ボールをかごから落とそう 8 時間（本時 2 / 8）

5 本時

- (1) 個人目標
(省略)
- (2) 普遍的な学習のテーマ 「人とかかわる力の育成」「仲間づくり」「豊かな生活」

(3) 展開

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価
1 始まりのあいさつをする。	・ T1 は始まりを表す笛を吹く。	・ 顔を上げ、T1 に注目することができている。
2 本時の学習内容を知る。	・ ボール遊びをすることの期待が高まるようボールやトイ、かごを提	・ ボールやトイに注目したり手を出したりする

<p>3 3人で向かい合いボールを転がし合う。</p>	<p>示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めにトイを使って2人で2回ずつキャッチボールをする。Aは、ボールを転がす前にVOCAを押しようT1が支援する。 ・T2, T3は、転がす相手の名前を呼び、BCが手からボールを放して転がせるよう支援する。 ・生徒の活動や反応にペースを合わせた支援を意識する。 ・生徒の様子を見て、自発的な動きを促すよう、手をタッピングしたり、手を添えてボールに手を出したりするなどの支援を行う。 ・順番が変わる時は、「○○さんどうぞ」と言いながらトイを渡せるよう支援する。(T1, T2, T3) 	<p>ことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分でVOCAを押し、ボールに手を出し掴んだりトイにボールを入れたりすることができる。 ・教員に促され、身体的な支援を受けて転がって来たボールをつかんだり、トイにボールを入れたりすることができる。 ・友達の方を見て教員といっしょに渡すことができる。
<p>4 ボールをかごに入れる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3人でボールを順に送り、最後の人がボールをかごに入れられるよう、見やすく入れやすい位置にかごを提示する。(T1, T2, T3) ・仲間としての意識を高めるように、支援やことばかけを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分でボールを持ち、示されたかごに入れることができる。 ・教員に促されてかごにボールを入れることができる。
<p>5 ひもを引いてかごのボールを落とす。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・吊したかごを3人で囲むようにし、自分でひもを引っ張れるよう示す。 ・かごの方を見るようことばかけをする。(T1, T2, T3) ・一人ずつ3回行い、順番を替わる時は、友達とタッチできるよう支援し、人とのかかわりを感じさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から手を出し、ひもを引くことができる。 ・かごを見上げて揺れたり落ちてきたりする様子を楽しみ、発声や快の表情を出すことができる。
<p>6 かたづけをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・かたづけ箱の中にかごやボールを入れるようことばかけをする。T1は箱を持って順番に生徒の前に立つ。T2 T3は、B Cに箱の中に入れるようことばかけや身体的支援で促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・箱の中にかごやボールを一人で入れることができる。 ・箱の中に一つずつボールを入れることができる。
<p>7 終わりのあいさつをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・T1は、当番の生徒にVOCAを示して机の上の押しやすい位置に置く。「しせい」「れい」はことばかけやタッピングで自発的な発声を促す。 ・T2は、号令に合わせてあいさつができるよう促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・VOCAのスイッチを一人で押すことができる。 ・教員に促されて自発的に声が出せている。 ・教員に促されて発声・頭を動かす等であいさつできている。

* VOCA …音声出力によるコミュニケーション補助機器のことで、スイッチを押すなどかんたんな操作でメッセージを表し、コミュニケーションできる。